

伊豆半島ジオパーク構想における 地域住民参加型自然体験活動の確立

和田茂樹(生命環境系・助教(下田臨海実験センター))

伊豆半島ジオパーク推進協議会(伊東市)、伊豆海洋自然塾(下田市)



【はじめに】

観光業の低迷に喘いでいる伊豆地域は、その状況打破に向けて世界ジオパークへの登録を目指している。世界ジオパークは、UNESCOによって公的に認定されるもので、自然と人間活動の共存・発展がカギとなる。本プロジェクトでは、新たな観光の形として注目されている自然体験活動を、地域住民が主導的に実施できるようサポートし、観光客の増加とそれに伴う地域経済の活性化を目標とする。

イベント名	人数
塩とジオの話	40人
稲生沢川源流探し	32人
海と山のジオ合宿	18人
水族館磯観察	28人
海からジオツアー	15人
フナムシ講座	31人
爪木崎ジオウォーキング	11人
海の仕組みとサンゴの話	17人
冬の磯観察	10人
閉講式	23人



塩とジオの話
鈴木雄介氏による
海の水の話



源流探し
源流の林とわさび田



ジオ合宿
スノーケリング体験
左は講師を務める市民



水槽レイアウト講座
水族館の都築氏による
生物の見せ方講座

【内容と今後の展望】

一年を通して、伊豆地域特有の山と海の両方の自然を生かしたイベントを実施した。この中で、一部のイベント(「海と山のジオ合宿」、「海からジオツアー」、「爪木崎ジオウォーキング」)は、他のイベントを受講した市民が自ら講師となり、自立的な自然体験活動を完遂することに成功した。これらの活動は、26年度に実施される「世界ジオパーク」認定への挑戦において、産学民連携の活動実績の一つとして貢献している。